

平成19年度 施政方針

〈一部抜粋〉

私は、市長就任以来、これからの自治体運営には、市民と行政とが確かな信頼関係を築きながら協働していくことが必要不可欠であるとの考えに立ち、市民との対話を通じて、課題を共有し、知恵や力を寄せ合って、「市民主役のまちづくり」に取り組んでまいりたいと申し上げてまいりました。「まちづくりの主役は、そこで生活を営む市民でございます。」

今後、この考えに立ち、市民の皆様との協働のまちづくりをさらに推進していくことが、市民が愛着と誇りを共有できるまちづくりにつながるものと確信をしております。

我が国の経済は、消費に弱さが見られるものの、企業部門の好調さに支えられ、引き続き景気回復の動きが継続すると見込まれております。

しかしながら、今後、人口の自然減、いわゆる団塊の世代の退職

などにより、労働人口が減少する一方で、社会保障関係費の自然増などにより、依然として大幅な財源不足が生じるものと見込まれており、地方の果たす役割は、ますます大きくなっていると認識しております。

当市におきましては、平成17年9月に策定いたしました、財政健全化に向けた取り組みにより「歳入に見合った歳出構造」への転換を図っておりますが、今後を見据えると決して楽観できる状況にはなく、引き続き、極めて厳しい財政状況が続くものと考えられます。

《後期基本計画》

- ・安全安心のまちづくり
 - ・子どもを産み育てられるまちづくり
 - ・食で育む健康のまちづくり
 - ・自立する活動的なまちづくり
- 《第4次吉川市総合振興計画施策大綱》
- ・心ふれあうひらかれたまちづくり
 - ・市民交流
 - ・元気でやさしさあふれたまちづくり
 - ・健康福祉
 - ・やすらぎとつながるおいのある快適なまちづくり
 - ・生活環境
 - ・人と自然が調和したまちづくり
 - ・都市基盤
 - ・魅力的で活力あるまちづくり
 - ・産業振興
 - ・いきがいと学ぶ楽しさを生むまちづくり
 - ・教育・文化・スポーツ

市長の施政方針に対する

代表質問

定例会開会日に市長より平成19年度の施政方針が報告され、翌日、それに対するの各会派の代表質問を行いました。以下に、その内容の一部を掲載いたします。

なお、質問、答弁とも質問者が要約したものです。

※施政方針は市のホームページの (<http://www.city.yoshikawa.saitama.jp>) の「市長のページ」をご覧ください。

市民改革クラブ

伊藤 正勝



「市民が主役」「市民との信頼関係の構築」。その姿勢、言葉には共感。その立場で●栄小通学区問題の総括●数字の大幅な見込み違い●混乱と不信を招いた責任●マンモス校化の克服策を問いたい。市長は●ご迷惑、ご心配をかけたことを深くお詫びしたいと陳謝●予測数字は住民基本台帳をもとに算入、予想以上の転入だった●マンモス校化については学校施設の活用や教育課程の工夫、保護者と連携、協議して対応したい●プレハブ教室は必要に応じて増設との意向を表明●都市計画税について、都市計画や区画整理事業に当てる目的税、0・3%の制限税率の枠内で平成20年度か21年度の導入を検討すると強調●吉川新駅については、19年度都市計画決定、23年度開業の方針で臨む●中曽根小の大規模改修は耐震補強工事の他、屋根、内装

外壁、照明、暖房等全面的に改修する●吉川橋架け替え工事は、この2月に幅員構成を変更、19年度中に詳細設計、事業説明会、用地測量、買収の開始。完成はおよそ10年後と説明●洪水ハザードマップは、周辺自治体との共同作業、浸水の想定地域、避難場所などのマップ。20年度に市民に周知の予定と質問に答えた。

公明党 吉川市議員団

中武 紘一



(問) 市民と行政の協働推進の基本方針策定の考え方を伺います。
(答) 市長 新たな行政運営の在り方を市民参画協議会を中心に議論して頂く。
(問) 水道水フロリデーシヨンの導入は。
(答) 市長 有効性と安全性は十分認識している、市民の理解が重要、他の施策も考慮しさらに検討していく。
(問) 地域活動支援センター開設